



農山村部は空屋も多い

手段確保が大事。早急にシステム構築に取り組みべき。

答 農山村地域の交通手段を持たない、交通弱者の移動特性の把握や地域が必要とする公共交通の形態等課題を整備し実現に向け検討を進めて行く。

◆鳥獣害対策は里山整備

し、体験を通じた提案やアドバイスなどの相談窓口、首都圏での相談会を行った。成果として市外から9世帯24人の移住・定住に繋がった。

問 果樹栽培地は猿の被害が多い、獣を里に近づけないため、県森林づくり県民税の積極的な活用とGPSを使った猿の行動把握システムの導入は、

移住しやすい環境づくりについては、行政だけでなく、まちづくり元氣カンパニー等、お試し住宅運用、移住者向け求人情報や相談等行っている。

答 猿による農作物の被害額は長期的には減少傾向にある。県民税を活用した里山整備事業は、緩衝帯整備による効果も期待できる、事業促進をしたい。また鳥獣被害防止総合対策推進交付金事業は、雌猿の首に発信装置を付けGPSで常時監視できる。今後も検討する。

また、空き家バンク制度については、空き家所有者等にダイレクトメールを送付する等、広く周知し登録を促している。

問 各区や地域内には沢山の役職があります。人口減少も進み、役は増えるが人は減る時代、行政も地域も役のあり方等について、見直しを検討すべきと思うがどうか。

答 地域の中で、活動が重複する役職の統合や、活動の精査は必要。また、役員に過度の負担がかか

らないよう今後地域の役職等の実態調査について、区長等と協議をしながら進めたい。

問 教師の働き方の見直し状況は。塩尻市教育事務協議会とは何か。

答 市教育委員会は、平成29年度に教職員働き方改革で「働き方改革共同研究グループ」を発足させ、様々な事務改善等を提案実施した。本年5月からは塩尻市教育事務協議会を設置し、4グループでそれぞれ次のテーマ「人事給与」「財務」「学年会計」「総務」を研究改善する。

その他、金子勝寿議員が市街化調整区域の土地利用について、牧野直樹議員が都市計画道路と野村桔梗ヶ原土地区画整理事業の進捗状況について関連質問した。

問 子どもを事件、事故から守るための対策は

答 散歩コース等の再点検、児童の登下校時の注意喚起、職員の交通安全について、指導を徹底するとともに、保護者、学校、保育園、地域が連携して、子どもたちを見守っていく体制をさらに充実させていきたい。

◆公共交通ネットワークの早急な整備を

◆超高齢社会の中で高齢

◆子どもを事件、事故から守るための対策は

◆介護予防と地域福祉について

問 高齢者の日常の移動

問 本市高齢化の現状と今後の予測、また考えられる課題は何か。

答 平成31年4月1日現在28・5%と4人に1人が高齢者となっている。令和17年には34・3%と予測され、国は団塊の世代が75才以上になる、令和7年を目前に、高齢者の自立生活支援のため、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられるよう、各地区に対策等を話し合う地域ケア推進会議の設置を進めている。地域で進捗状況が異なり、今後の課題となっている。

問 国保特定健診の現状と受診率向上への取り組みはどうか。

◆介護予防と地域福祉について

◆国保特定健診の現状と受診率向上への取り組みはどうか。

◆子どもを事件、事故から守るための対策は

◆介護予防と地域福祉について

市民派連合
 質問者
 永田 公由
 古畑秀夫・丸山寿子
 篠原敏宏
 持ち時間115分

バイオマス発電所の発電用木材の安定供給は

◆子どもを事件、事故から守るための対策は

◆子どもを事件、事故から守るための対策は

◆子どもを事件、事故から守るための対策は

◆子どもを事件、事故から守るための対策は

◆子どもを事件、事故から守るための対策は

◆子どもを事件、事故から守るための対策は

◆子どもを事件、事故から守るための対策は

◆子どもを事件、事故から守るための対策は